

別紙

市政懇談会『財政の健全化』 質疑・意見交換

質問・意見	回答
◇ ぶるも・ふるさと館・船場公園・スキー授業	
<p>・プールは身の丈にあっていたのか。利用者も水泳サークル程度でほとんどいない。市民感覚とかけ離れている。</p> <p>・ぶるもの休止は7年間、その後は再開するのか。</p> <p>・プールの休止とは、再開もあるということか。</p> <p>・ぶるもは医者も健康にいいと言っている。高齢者も一番やりやすい運動である。一旦休止にしたら鎧等で使えないと言っているが。</p> <p>・まず、子どもたちをどうするのかを行政として、市民として考えなければならない。ぶるも・スキー授業について子どもたちから取り上げるのはどうかと思っている。スキー授業については、父兄の負担で賄うことも可能だろうが、ぶるもについては父兄の負担では無理だと思う。子どもたちを放り出してしまうのか。</p> <p>・意見を聞く気も無いのにパブリックコメント、市政懇談会は意味がない。7年後は明るい未来が待っているのか。これが最善策と思っているのか。ぶるもはこれだけ反響が大きいので、何かの対策とか話し合われているのか。</p> <p>・スキー学習やぶるも無くなれば、子どもたちの未来がなくなる感じがする。ぶるもは休止のことだが、もう少し前向きに考えられないか。</p>	<p>・それまでにあったプールを廃止してぶるもを作った。その時点ではまだ借金ができる状況で、過疎債などを利用した。</p> <p>・その予定です。</p> <p>・一旦休止し、計画を進めて何とか再開をしたい。財政状況がよくなれば7年よりも早く再開がありうる。</p> <p>・民間が負担しても夏場だけとなれば状況は変わってくると考えている。</p> <p>・休止中でもどのようなメンテができるか研究しているところである。</p> <p>・これまでプールの4、5千万を守るために、交付税の減額など非常に苦しい財政状況にあつたが、職員や皆さんの協力でいぶん他の経費を削減して努力し、今まで3億5千万円の市税を投じながら継続してきた。</p> <p>・子どもの夢を奪ってはいけないという強い思いはあるが、今まで3億5千万円を投じてきたことと、現在の財政状況を総合的に考えた場合、休止を判断せざるを得ないと考えている。</p> <p>・努力してきたにもかかわらず、子どもの夢を壊すことになるが、ぶるも休止での効果額は4千万円、7年間で2.8億円となっており、相対的に考えた場合これだけの効果額を捻出することは難しいと判断しました。誠に申し訳ありませんが辛い決断をした。</p> <p>・子どもたちのために努力して行こうという事で何とか続けてきたが、今回の病院の赤字は想像もつかない状況となった。一生懸命がんばっている子どもたちを見ると本当に堪び難い気持ちでいる。病院をできるだけ早く再建して、皆さんにお願いしている部分については、早く再開できる努力をしていかなければならないと考えている。</p> <p>・子どもの夢、年配の方の健康づくりの面から必要な施設であることはわかっている。署名も全道各地に渡っている。子どもの夢を踏みにじむ苦しい判断をしなければならないと思っている。</p> <p>・子どもたちの夢を叶えるために当時プールを作つておれ、それを維持して行きたいが、今病院の体制を守らなければ医師が来てくれないので、なんとか我慢をしていただきたい。</p> <p>・子どもたちには大変つらい、申し訳ないことをしてしまうが、このまちをもう一度見直して、新たな価値観で、留萌で自分たちがどう生き方をすればいいのかを、子どもたちと率直に話をしながら留萌のまちの自然の美しさというものを共に共有していきたいと思っている。</p> <p>・子どもたちの教育環境は、留萌の自然、食育、この地域で育っていくことに誇りを持つため、共にこの地域を見つめ直し、その環境のなかで、地域、市民の優しさと思いやりを持って教育の取り組みを考えいかなければならない。子どもたちの教育に手をつけざるを得ないことに心からお詫びをし、力強く生きる思いを持ってほしい。</p> <p>・スキー授業については、低学年の子どもたちはかつて学校グラウンドでやっていた経緯もあり、PTAや学校側と協議をし、意見を伺いながら判断していきたい。</p>
<p>・ぶるものには平日に40～50人くらいの子どもが、休みの日も家族連れがかなり来ている。地域医療をなくせとは言えない、命が一番だと思っている。しかし、少年団が1万人の署名を集めたわけであるから、何とかぶるもを維持できないのか。ぶるさと納稅、議員の報酬を下げるなどしてぶるものの運営費に回してもらうとか、7年間も休館するのはどうか。</p> <p>・ぶるもの存続についてはあれだけの署名が集まるほど利用者がいる。よく考えていただくようお願いしたい。</p> <p>・自分もプールを利用しているが、とても良いところだと思う。市の状況も大変で仕方ないなどと思うが、子どもたちのスキー授業も削減されている。プールの運営費は大きいが、大人は我慢してもいいので、子どもたちの夢を大切にしてやってほしい。</p> <p>・以前留萌市の貯えが20億円あり20年度で7億使い、残るのは3億円と聞いているが、それをスキー学習やぶるもに対し少しでも援助できないか。水泳教室も無くなるし子どもたちは留萌に住んでよかったと感じないのではないか。</p> <p>・議員報酬もそうであるが、何を削って、実施しなければならないものは何かという緊迫感が足りない。留萌市の財政は、まだ子どもの学習内容まで削るという状況には至っていないと思う。</p> <p>・子どもたちがこれから育つていかななければならない場所を、どうしても閉鎖しなければならないのか。ぶるものと、どこかでどうにかすることはできないのか。存続をお願いしたい。</p> <p>・最初の市担当者からの説明では、案段階でどのようにでも変わるとの話だったが、先ほど子どもたちを連れて市長室で市長の話を聴いた中でも、絶対休止で再開はあり得ないとのニュアンスの話であった。</p> <p>・ぶるもの休止は、留萌には海があるので海に行きなさいということか。一旦休止をするとあれだけの施設がそう簡単に再開できるの</p>	<p>・12年、17年の改革で見直すものは見直し、指定管理者などの努力で利用者の増、経費節減もできたが、それでも管理費をあわせて毎年5千万は重い。つらい思いであるが、全体を考えるとどうしても</p>

か。ぶるもは当初の経費より1千2百万円浮かしているので、夏場だけ動かすなど経費を削減すると休止しなくとも良いのではないか。

負担できない。病院がここまで医師不足で赤字になるということは想像できなかった。全国のどの病院でもこういう状況であり、今回は病院を守るためにプールの休止を決心せざるを得なかった。

・子どもの水泳学習、スキー学習を今年は予算どおり実施して来年からというが、これらの授業については学習指導要領に入っていて、それを管理するのは教育委員会ではないか。その教育委員会が、市に金がないから教育課程を変更せよというのは、あまりにも将来のある子どもに対し過酷ではないか。

・議会でも削減効果などについて議論されることと思うので、理解していただきたい。

・病院も大事であるが子どもは宝である。市長も簡単に子どもにも我慢をしてもらうと言ってほしくない。

・この財政状況の中で子どもの教育環境のために、何ができるかを真剣に考えた教育行政を執行していきたい。

・水泳少年団20名、コーチ、保護者が市長と会って14,000人の署名を渡し、ぶるもも守ってほしいと言ったが、市長は市立病院を守るために一点張りだった。その時もドッグランは作ってくれと言った人がいたと言っていた。何故プールはできないのか。

・子どもは宝であり、プールは守りたいという強い思いがあったが、毎日救急車で患者が運ばれる姿を見たとき、子どもたちには申し訳ないが、我慢していただきたいという気持ちである。そのかわり、病院が順調に健全化に向かったなら、休止している部分については再開できる手立てを講じて行きたい。管理費にも十分配慮していきたい。ご理解をお願いします。

・ぶるもが出来たから子どもに水泳を始めさせた。これまで、素晴らしい選手も育ち、全国大会に出場できる選手もあり、ここまで育った選手は水泳をやめたくない。オリンピック選手になろうという子どもたちもいる。将来オリンピック選手が出るかもしれない中、子どもたちの夢を壊してまで休止するのか。

・市民サービス向上のため、施設を計画的、将来を考えて建ててきたと思っている。それぞれの時代で市民満足度を高めるために実施してきた。船場公園も将来につなげる施設として整備してきた。

・休止になると旭川、滝川まで競泳を習わせにいかなければならず、負担増になる。続けられる形として、例えばスクールバスのように旭川までバスを出したり、今以上の金額の差額を補助していただけるような考えは無いのか。

・病院を守るため、多額のお金を一般会計から負担しなければならない。この計画を進めなければ病院は守れない。

・再生団体となった夕張には、プールもありスキー場もある。市の方はそれをどう思う。

・スキーではオリンピック選手も出ており、スキーの子どもたちを育てる親も大変な思いで育ててきている。

・プールの補助金返還はどのようにになっているのか。国に確認しているのか。

・中体連のスキー大会など、そのような予算についても今日大変厳しい状況にあるため、個人への負担については厳しいものがあると考えている。

・ぶるもと再開発ビルの管理とはどういう関係があるのか。
・再開発の利用というのは、もうプールのビルではないと考えるということ。

・子どもたちに大変つらい思いをさせてしまうが、この7年間にスポーツ環境もしっかりと考えていかなければならない。

・再開発ビルの管理方法を検討とはどういうことか。

・一般的に施設が完全になくなるか、違う目的に使ってしまうような場合は国から返還が求められるが、休止ということで、目的も失わず施設も保全されているため、国に確認はしていないが、今までの例からも返還を求められることはないとと思っている。

・ぶるもの効果額は管理費が入っているのか。内訳は。

・ビルは市が単独で持っているものではなく、市と何社かが共同で保有し、その中のぶるも部分を市、テナントの部分は市以外、共有部分は市も含め権利者全部で保有している。

・あの建物を個人で運営するのは無理。廃止するというのであれば仕方ないと思う。廃止なら廃止とはっきり答えたほうがいい。

・ビルの持ち主として応分の負担をしている。その負担の方法を検討していくことであって、プールがなくなっても応分の負担はしなければならない。

・プールは、なくても生きていけるが病院はないと困る。

・ぶるも関係の予算は、4,850万円。これはプール利用料金約2,000万円を差し引いたものであり、合計すると7千万円弱の経費がぶるもビルにかかっている。その中で1千万円ほどがビル管理関係の費用。

・スキー授業については、父兄負担があれば継続するということか。

・そのとおりです。

・冬季体育授業を再検討するとなっているが、スキー授業はもう中止ということか。

・平成11年度から行財政計画に取り組み、これまでには教育だけには手をつけなかったがスキー場だけは別であった。カモイワのスキー場は経費面で断念せざるを得なかった。

・子どもたちの冬の環境を守るという思いも強いが、かつては雪山を造る、裏山を利用して授業を行った経緯もあった。年齢にあわせて冬の体育を一度立ち止まって考えていいけないかということで、このような提案をしている。

<p>・冬休みが明けてすぐスキー授業になるが、父母は予算を立てて必要なものを準備したり、計画的に考えていく。</p> <p>・学校への説明があって父母に連絡が届くと思うが学校には連絡は行っているのか。</p> <p>・冬季体育授業を相談していると言ったが、新聞等で見る以外に学校全体、父母全体への説明は行っていないのではないか。</p> <p>・船場公園は市で作ったのか、いくらかかったのか。</p> <p>・船場公園は要らないのでは。ドックランも必要ないと思う。</p> <p>・船場公園の整備もいいことだが、市内の公園も休みの日しか子どもは遊んでいない。私の意見として船場公園は今のところでやめたほうが良いのでは。</p> <p>・船場公園はやめることができないのか。</p> <p>・船場公園を、来年にも倒産するかもしれないというこの時期に、やめることはできないのか。</p> <p>・ふるさと館を郷土のことを教える場として利用している。そういう場所をまったく閉じてしまって、子どもに郷土愛、留萌を愛する心をどのように育していくのか。</p>	<p>・今年度の授業についてはそのままであり、来年度の予算の中で検討していかなければならないと思っている。</p> <p>・スキー授業については、小・中学校合わせて、バス代、リフト代に770万かかる。この費用について、保護者の皆さまでの程度の負担が可能であるか。負担が難しいのであれば、代わる授業としてどのようなカリキュラムを組んでいくのかなどについて、学校と協議しており、保護者の皆さまとも相談させていただいている。</p> <p>・今協議しているのは市内の校長会、市P連の会長である沖見小学校のPTA会長と教育委員会との間においてある。それを保護者の皆さまにおろしていただき、スキー、プールの件について、さらに協議を進めて行きたい。</p> <p>・市の公園。都市公園として補助金をもらって整備を進め、補助率が高い。今年度は5,000万円で市の負担は2,500万円。</p> <p>・公園についてもドッグランについても皆さんの意見を聞いて計画に盛り込んだものである。愛犬家にとっては必要との意見もあった。</p> <p>・公園づくりもその時には必要だった。市民農園のようにはいかないが、花壇にミニトマトを植えるなど地域の公園を地域で育ててほしい。</p> <p>・船場公園は、将来交流の拠点となる場所であり道の駅も考えている。補助金をもらって計画を立てて進めてきた。先延ばしできる部分は検討していく。経済交流を守るためにも計画通りとはいえないが、予算を抑えながら少しずつ整備していきたい。費用対効果が生まれるように努力したい。</p> <p>・将来の基盤づくりを許される範囲で進めていく。</p> <p>・ふるさと館は色々知恵を絞って維持してきた。施設整備で子どもたちに満足を与えるのではなく、もう一度自然豊かなこの留萌を子どもたちに体験してもらう。施設がなくても、ふるさとの自然を記憶してもらって、そこから子どもたちには強く育ってもらいたいと考えている。</p> <p>・ふるさと館については、民間企業に引き受けてもらって、新たな方向性が見えてくれれば市としても努力したい。このまま継続するのは、財政上からも厳しいものがあるので、一旦廃止にして、皆さんの意見を聞きながら施設利用については考えたいと思っている。</p>
--	--